

26日製造開始、9月発売

五島灘酒造が 本格焼酎参入

新上五島

【上五島】国が六十五年ぶりに認めた本格焼酎製造の新規参入で、製造・販売業者「五島灘酒造」が新上五島町有川郷、田本喜美代社長（四九）に福江税務署から製造免許が下り、田本社長が十八日、井上新上五島町長に報告した。福岡国税局によると、今回の規制緩和で免許が下りたのは、管内の長崎、福岡、佐賀三県で初めて。

焼酎を造りたいと誓った。井上町長は「これまで長い道のりだった。焼酎を墓前に据え、『できたよ』と報告できる日を楽しみにしている。町としても、五島うどんや水産加工品とともに、PRに力を入れたい」と話した。

国は二〇〇六年一月、酒み、九月に「五島列島教会税法を改正。▽焼酎の原料群 祈りの島」「五つ星」となるコメカムギ、サツマなどとして県内の酒店などイモ、ソバが業者のいる市で発売。一本七百二十リットの甘藷（かんしょ）ⅡサツマイモⅡの収穫量は、本県町村で生産されている▽年で千三百五十円程度を予定間製造量が百キリ以内にしてはいる。報告のため同町役場を訪れた田本社長らは、「夫の県内四位の九百七十九リットを条件に規制緩和した。同町では同年四月、新たに遺志を引き継ぎ、おいしい占める。」

福岡国税局管内 規制緩和後初の免許

組織「焼酎を造ろう会」（現在は解散）が発足。同会メンバーで田本社長らの夫、田本修一さん（〇八年一月死去）が名乗りを上げ、〇七年二月に「五島灘酒造」を設立した。

同社は同年四月、福江税務署に免許申請、今年二月十三日に認可された。〇七年九月、約千五百三十平方メートルの敷地に三百九十平方メートルの敷地に三百九十平方メートルの木造平屋の工場を建設。原料は、町内の農業者ら有志が生産したサツマイモを使う。故修一さんの四十九日の今月二十六日に製造を始める。初回の仕込みによる製造量は三・五キリを見込



焼酎製造免許が下りたことを井上町長に報告する田本社長（中央）＝新上五島町役場